

ほっかいどうの社会保障

2011年10月15日

北海道社会保障推進協議会

Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

消費税増税やめて！年金、医療などの拡充を！



10月14日、国民大運動実行委員会と北海道社保協は、札幌大通公園で、震災復興、原発ゼロへ、社会保障の拡充をめざして、120人で集会を行いました。

各分野の代表がマイクを握り、道行く市民や観光客に協力を呼びかけました。社保協からは甲斐基男副会長が「社会保障・税一体改革では、社会保障のために消費税を

あげると言っているが、消費税を上げなければ社会保障は改善しないという国民に負担を押しつける内容で、国の責任で大企業をはじめ所得に応じた負担で社会保障を拡充させることが必要」と訴えました。

この日は2カ月に一度の年金支給日でもあり、年金者組合など、全道約60カ所で宣伝行動が行われました。

介護給付削減はやめて！介護職員の待遇改善を！

勤医協在宅が毎週定例行動 短時間で103筆集まる

この日は、勤医協在宅も毎週行っている宣伝署名行動をしていました。

厚生労働者は、2012年度以降も介護労働者の処遇改善策（現行月1万5千円）を続けるために、介護保険料の利用料、保険料の値上げに加え、利用者の給付削減の法案を来年の通常国会に提出することを表明しました。

「民主党は、介護職員の給与を月4万円あげると公約しましたが、値上げもせず、介護制度を改悪しようとしています。国の責任で制度を改善させることが必要」と訴えました。

署名入りテッシュを受け取った女性から「知人にも署名してもらい届けたい」と電話もありました。



「協会けんぽは破綻寸前」 来年度保険料検討はじまる

協会けんぽ北海道支部評議会

10月12日、協会けんぽ北海道は、全国協会けんぽの来年度保険料（9.5%→10.2% 70～74歳の医療費を2割負担にした場合10.14%）の見込みを受けて、支部評議会を開き、支部の保険料（現行北海道は9.6%で全国最高）の議論をはじめました。

事務局から、全国協会けんぽが与党の民主党や小宮山厚生労働大臣へ国庫負担率（現在16.4%を法律上限の20%へ）の引き上げを要請したことが報告されました（民主党は来年度概算予算に協会けんぽ・国保等の財政対策を求めましたが、厚労省の概算要求には盛り込まれていません）。

議論では「昨年の法改定で保険料率の上限を10%から12%にしたが、国は今度の値上げを見据えていたのでは」「毎年保険料が上がり協会けんぽは破綻寸前」「景気が悪い中、仮に賃上げしても保険料収入が減るので、結局事務主（保険料）負担が増えてしまう」「法人税は赤字企業にはかからないが保険料は赤字企業も負担がある。値上げは景気を悪化させる」「都道府県ごとの保険を運営は無理では」「高齢者が安心できる制度が必要」などの意見が出されました。今後毎月会議を持ち1月に意見をまとめる予定です。

医療費の適正化（抑制）も議論

また、北海道の担当者から「北海道医療費適正化計画」（2008～2012年度）の進捗状況の説明を受けました。2010年度までの状況は数値が出されていないとしつつ、取り組み状況が報告されました。その説明を受け「到達数字がでないのは残念」「北海道の医療費が高い要因はなにか」「医療費は、医療体制など医療計画とも深く関るので、私達も是非参加させてほしい」「健診を進めるため、以前の制度で受診率も高かった市町村での健診を委託をお願いするが進まない。道がもっと援助できないか」など意見がされました。

新しい「医療費適正化計画」「医療計画」は2013年度からが始まりますので、来年度中には検討決定されます。

